

大阪市立大学大学院都市文化研究センター・上海師範大学中国近代社会研究中心
“东亚的都市文化与都市发展”（東アジアの都市文化と都市発展）
第三回国際学術シンポジウム

2012年3月8日（木）

於 上海師範大学

8:30 開幕式：上海師範大学中国近代社会研究中心主任 唐力行教授による挨拶

9:00-11:30 第一部報告（各20分）

司会：上海師範大学 錢杭教授

1. 井上 徹：

「关于东亚城市文化形成的历史理解（東アジア都市の文化形成に関わる歴史的把握）」

2. 仁木宏：

「15～17世纪都市京都的社会集团及其变容（15～17世纪の都市京都における社会集团とその変容）」

3. 洪煜：

「中国传统城市的文化内涵（中国伝統都市の文化的意義）」

4. 王傑：

「地方传统秩序的重建—以耿定向的邓豁渠批判为中心（地方伝統秩序の再建—耿定向の鄭豁渠批判を中心に）」

5. 辻高広：

「裁厘统捐的实施与江西社会（裁厘统捐の実施と江西社会）」

質疑

11:30-12:45 昼食

13:00-17:00 第二部報告（各20分）

司会：大阪市立大学 井上徹教授

1. 徐松如：

「移民与都市—以旅沪徽州人创办的亚东图书馆为例（移民と都市—上海移住徽州人創建の亜東図書館を例として）」

2. 姚霏：

「从图像看晚清上海女性与城市空间—兼论图像学在历史研究中的运用（図像よりみた晚清上海女性と都市空間—あわせて図像学の歴史研究への利用について論じる）」

3. 王健：

「明清至民国时期的“天竺进香”史初探（明清から民国時期における「天竺進香」史に関する初歩的考察）」

4. 王標：

「清初江西文化秩序的重建—以江西巡抚宋荦及其交游为中心（清初江西文化秩序の再建—江西巡撫宋犖およびその交遊を中心に）」

質疑

17:00 閉幕式 上海師範大学人文与伝播学院院长 蘇智良教授、大阪市立大学 仁木宏教授による挨拶

18:00 懇親会

当日は大阪市立大学からの報告者 5 名、上海師範大学からの報告者 4 名の計 9 名が報告し、上海師範大学の教員、学生を中心に 30 人ほどの方に集まって頂いた。この時期は中国では授業期間の平日にも関わらず、それぞれが授業の合間をぬって、各報告者の報告やその後の質疑に耳を傾けていた。



各報告概要

井上徹「关于东亚城市文化形成的历史理解（東アジア都市の文化形成に関わる歴史的把握）」

井上氏は東アジア諸都市の文化形成に関して、三つの歴史的段階についての枠組みを設定し、その上で特に日本と中国の都市に関するこれまでの議論を紹介し、本シンポジウムの議論の糸口とした。

仁木宏「15～17 世紀都市京都的社会集团及其变容（15～17 世紀の都市京都における社会集团とその変容）」

仁木氏は、地縁的共同体が 16 世紀になって急速に発達を遂げ、京都の都市社会の政治・生活上の基礎構造を構成するようになったことを明らかにした（日本語）。

洪煜「中国传统城市的文化内涵（中国伝統都市の文化的意義）」

洪煜氏はヨーロッパ都市とは異なる中国都市独自の歴史的変遷について分析し、北方都市が農業国家における政治的、軍事的機能を発展させ、政治倫理文化精神を特色として示す一方、南方都市は経済発展にともない、商業文化精神を顕著に示していたことを指摘した。

王傑「地方传统秩序的重建—以耿定向的邓豁渠批判为中心（地方伝統秩序の再建—耿定向の鄭豁渠批判を中心に）」

王傑氏は明末の思想家耿定向を題材に、当時の保守的知識人が地方の伝統的社会秩序を再建するために、いかなる思想を展開し、行動したのかについて報告した。

辻高広「裁厘统捐的实施与江西社会（裁厘统捐の実施と江西社会）」

辻高広氏は清末江西の釐金整理政策の実施過程を、清末の江西省を取り巻く社会、経済的状况より分析し、江西省の地理的状况と、穀倉地帯として先進経済地帯から受け続ける食糧供給圧力とが歴代巡撫の釐金整理政策に影響を与えたことを指摘した。

徐松如「移民与都市—以旅沪徽州人创办的亚东图书馆为例（移民と都市—上海移住徽州人創建の亜東図書館を例として）」

徐松如氏は上海において徽州人士によって設立された亜東図書館について分析し、都市移住民たちが上海の都市社会に定着していく過程で、社会的、文化的発展に果たした影響について指摘した。

姚霏「从图像看晚清上海女性与城市空间—兼论图像学在历史研究中的运用（図像よりみた晚清上海女性と都市空間—あわせて図像学の歴史研究への利用について論じる）」

姚霏氏は晚清時期の絵入新聞などを題材に、そこに描かれた上海都市女性の姿から、当時の女性を取り巻く文化、風俗について分析し、あわせて絵画史料を歴史研究に用いる上での分析方法について論じた。

王健「明清至民国时期的“天竺进香”史初探（明清から民国時期における「天竺進香」史に関する初歩的考察）」

王健氏は明清時期より民国にいたるまで江浙一帯で流行した「天竺進香」とよばれる巡礼について報告、その巡礼ルートや行程、経済的影響について分析し、清末の禁圧を受けてなお、民国にいたるまで生き続けた天竺進香の社会文化における意義について指摘した。

王標「清初江西文化秩序的重建—以江西巡抚宋犖及其交游为中心（清初江西文化秩序の再建—江西巡撫宋犖およびその交遊を中心に）」

王標氏は清初の江西巡撫宋犖の地方統治について文化的側面から報告した。宋犖と明遺民との交流、寺廟など文化施設の修復に関する分析を通じて、江西社会秩序の再建過程について分析を加えた。